

音楽科 6年

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 題材 | I 歌詞から想像を広げよう | | | 4・5月（5時間） |
| 目標 | 曲想や歌詞を基に、情景を思い浮かべ、曲にふさわしい音色で表現している。 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 歌詞の内容と曲想との関わりを理解し、曲想に合った音色で歌ったり演奏したりしている。 (②思・判・表) 曲想に合った声の音色について思いや意図をもっている。 (③主体的態度) 曲想や歌詞から情景を思い浮かべ、進んで歌ったり演奏したりしようとしている。 | | | |
| 教材 | ペガサス 覚和歌子 作詞 三宅悠太 作曲 ト長調 4分の4拍子 P10・11 おぼろ月夜 文部省唱歌/高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 ハ長調 4分の3拍子 P12・13ページ つばさをください 山上路夫 作詞 村井邦彦 作曲 加賀清孝 変ロ長調 4分の4拍子 P8・9ページ | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | I | ○『ペガサス』と『おぼろ月夜』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 歌詞から想像を広げよう | ○曲による曲想や歌詞の違いに気付けるように、『ペガサス』と『おぼろ月夜』を比較鑑賞する機会を設定する。 | ◇歌詞に込められた思いを感じ取り、歌詞の表す内容や情景、曲想にふさわしい歌い方について発言している。 <発言③> |
| 追求する | I | ○『おぼろ月夜』の情景を思い浮かべたり歌ったりする。 | ○歌詞から情景を思い浮かべられるように、菜の花畑や村の写真を用意する。 | ◇歌詞に合う歌い方について思いや意図をもち、発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②> |
| | I | ○『おぼろ月夜』の曲想や歌詞を基に、音色や強弱の工夫を考えて歌う。 | ○音色や強弱の工夫と歌詞との関わりに気付けるように、様々な歌い方を比較する機会を設定する。 | ◇歌詞を基に、音色や強弱の工夫を考えて発言したり、工夫して小さな声で歌ったりしている。 <発言・表現①> |
| | I | ○『つばさをください』の曲想や歌詞を基に、音色や強弱の工夫を考えて歌う。 | ○『おぼろ月夜』で工夫したことを生かせるように、『おぼろ月夜』と比較しながら歌う機会を設定する。 | ◇歌詞に合う音色や強弱の工夫について思いや意図をもって発言したり記述したりしている。 <発言・表現①> |
| ま 生と かめ する | I | ○『つばさをください』と『おぼろ月夜』のどちらかを選んで発表する。 | ○想像を広げながら演奏できたことを実感できるように、互いに演奏を聴き合う時間を設定する。 | ◇曲想と強弱を工夫しながら、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌っている。 <表現①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素（太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素）： 音色 ，フレーズ， 強弱 ・題材のつながり：5年「歌詞から想像を広げよう」，6年「詩と音楽の関わりを味わおう」 | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 題材 | 2 音色の世界を広げよう | | 5・6月(7時間) | |
| 目標 | 曲想と音色との関わりを理解し、様々な音色を味わいながら、音色の違いを生かして演奏したり音楽をつくったりする。 | | | |
| 評価 規準 | (① 知・技) 曲想と音色との関わりを理解し、音色の違いを生かして演奏したり音楽をつくったりしている。 (② 思・判・表) 曲想に合った楽器や声の音色で演奏することについて思いや意図をもったり、楽器の音色を味わいながら聴いたりしている。 (② 主体的態度) 楽器や声の音色に関心を持ち、曲に合った音色を考えながら、進んで演奏したり音楽をつくったりしようとしている。 | | | |
| 教材 | 管弦楽組曲『惑星』から 木星【鑑】 ホルスト 作曲 4分の3拍子 変ホ長調 P16・17 ラバースコンチェルト デニー ランデル・サンデー リンザー 作曲/石柘冬樹 編曲 ヘ長調 4分の4拍子 P18・19 ボイスアンサンブル P22・23 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 1 | ○管弦楽について調べたり、『木星』を聴いたりする。 | ○それぞれの楽器の音色の違いに気付けるように、楽器ごとに演奏する動画を見る機会を設定する。 | ◇オーケストラの楽器の音色について発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> |
| | 1 | ○『木星』や『ラバースコンチェルト』を音色に気を付けながら聴き、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — いろいろな音色を生かして演奏しよう | ○音色の重なり合う響きに関心をもてるように、場面ごとに使われている楽器と曲想とを比較しながら鑑賞する機会を設定する。 | ◇音色が重なり合う響きに関心を持ち、重なり合う音色の美しさやよさについて発言したり、記述したりしている。 <表現・記述①②③> |
| 追求する | 1 | ○『ラバースコンチェルト』の旋律をリコーダーやキーボードで演奏する。 | ○曲想と音色との関わりについて気付けるように、様々な音色で旋律を演奏する機会を設定する。 | ◇曲想に合う音色で演奏することについて思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 <表現②> |
| | 1 | ○『ラバースコンチェルト』の各旋律を演奏し、各旋律の役割に合った音色の楽器を選ぶ。 | ○旋律の役割に合う音色や楽器を選択できるように、楽器を複数提示したり、楽器の音色を試す時間を設定したりする。 | ◇いろいろな楽器の音色や奏法を試したり、音色の違いについて発言したりしている。 <表現②> |
| | 1 | ○『ラバースコンチェルト』をグループごとに合奏する。 | ○自分の旋律の役割に気付いて演奏できるように、それぞれの旋律の特徴と音色の工夫を伝え合う時間を設定する。 | ◇自分の旋律の役割を意識しながら、音を合わせて演奏している。 <表現①> |
| まとめる・生かす | 1 | ○様々な声を出して遊び、『ボイスアンサンブル』の発想を得る。 | ○様々な声の音色や出し方を紹介し合えるように、ロイロノートのカードに録音する時間を設定する。 | ◇様々な声の出し方やつなげ方に気付き、発言したり録音したりしている。 <表現②> |
| | 1 | ○『ボイスアンサンブル』をつくる。 | ○音の重なり方を試しながら、ボイスアンサンブルをつくれるように、グループごとにワークシートを用意する。 | ◇様々な声の音色を生かして演奏することについて思いを持ち、発言したり音楽をつくって演奏したりしている。 <表現①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色，旋律，音の重なり，変化，音楽の縦と横との関係 ・題材のつながり：5年「いろいろな楽器の音色を重ねると」，6年「音楽で思いを伝えよう」 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| 題材 | 3 和音の美しさを味わおう | | | 6・7月(5時間) |
| 目標 | 曲全体の和音の美しい響きを味わいながら、工夫して音楽表現をする。 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 曲想と和音の響きとの関わりを理解し、全体の響きを聴きながら演奏をしたり、旋律をつくったりしている。 (②思・判・表) 曲想に合った和音の響きを生かして音楽表現することについて思いや意図をもち、奏法を工夫して演奏をしたり、旋律をつくったりしている。 (③主体的態度) 和音の響きのよさや美しさを味わい、進んで演奏したり、旋律をつくったりしようとしている。 | | | |
| 教材 | 星の世界 川路柳虹 日本語詞 コンバース 作曲/飯沼信義 編曲 ヘ長調 4分の4拍子 P26・27 雨のうた 鹿谷美緒子 作曲 イ短調 ハ長調 4分の4拍子 P28・29 和音の音で旋律づくり P30・31 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であ う | 1 | ○『星の世界』や『雨のうた』を聴いて、 学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — いろいろな和音の響きを感じ取ろう | ○長調と短調の和音の響きの違いを感じ取れるように、『星の世界』と『雨のうた』を、比較鑑賞する時間を設定する。 | ◇和音の美しい響きを感じ取り、長調と短調の和音の響きの違いについて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述①②③> |
| 追 求 す る | 1 1 | ○『雨のうた』のそれぞれの旋律をリコー ダーで演奏する。 ○『雨のうた』を和音の響きを感じ取りな がら合奏する。 | ○和音の響きを感じ取りながら演奏できるように、全体で合わせなが ら、繰り返し自分の旋律を演奏する時間を設定する。 ○場面による和音に響きの違いと曲想とを結び付けられるように、場 面から思い浮かぶイメージを共有する機会を設定する。 | ◇自分の旋律と和音の響きの関わりに気付いて発言したり、 友達の響きを聴きながら演奏したりしている。 <発言・記述①> ◇ 曲想に合った和音の響きを生かして演奏することについ て思いや意図をもって発言したり、演奏したりしている。 <発言・表現②> |
| ま と め る ・ 生 か す | 1 1 | ○I・V和音から、音を1つずつ抜き出し て旋律づくりをする。 ○I・Vの和音からつくった旋律を発表し 合う。 | ○和音の響きと自分のつくった旋律が重なり合う響きを楽しみなが ら音を選べるように、和音の伴奏の音源を各自のタブレットに配付す る。 ○和音の美しい響きを感じ取れるように、グループごとに発表を聴き 合う場を設定する。 | ◇和音の響きを聴きながら、自分のイメージに合う音を選 び、旋律づくりをしている。 <表現・記述③> ◇ 和音響きを生かしながらかつた旋律を発表したり、友達 のつくった旋律のよさを伝えたりしている。 <表現・発言①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)： 和音の響き 、音の重なり、調、音楽の縦と横との関係 ・題材のつながり：5年「和音の世界へようこそ」 | | | | |

| | | |
|--|---|-----------|
| 題材 | こころのうた（われは海の子） | 8・9月（1時間） |
| 目標 | 歌詞から情景を思い浮かべ、表現したいイメージに合った声を考えながら歌う。 | |
| 評価 規準 | (①知・技) 曲想と歌詞の関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら声を合わせて歌っている。 (②思・判・表) 歌詞から情景を思い浮かべ、表現したいイメージに合った発声の仕方や音色について思いや意図をもったり、歌詞に合った表現の仕方を味わいながら聴いたりする。 (④主体的態度) それぞれの曲の歌詞に興味・関心を持ち、進んで友達と声を合わせて歌おうとしている。 | |
| ○われは海の子の情景を思い浮かべながら歌う。 | | |
| 【備考】P44・45 ・学習する音楽を形づくっている要素（太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素） | | |

| 題材 | 4 曲想の変化を生かそう | | 8・9月(9時間) | |
|---|--|---|--|---|
| 目標 | 曲想の変化を感じ取り、表現したいイメージに合った楽器の編成や音色を工夫し、全体の響きを聴きながら音を合わせて演奏する。 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 曲想の変化と楽器の音色の関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら音を合わせて演奏している。 (②思・判・表) 曲想の変化を感じ取り、表現したいイメージに合った楽器の編成や音色について思いや意図をもったり、曲想が変化していくよさを味わいながら聴いたりする。 (③主体的態度) 曲想の変化に興味・関心をもち、進んで友達と音を合わせて演奏しようとしている。 | | | |
| 教材 | ハンガリー舞曲第5番【鑑】 ブラームス 作曲/シュメリング 編曲 ト短調 4分の2拍子 P34・35 風を切って 土肥武 作詞 橋本祥路 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P70・71 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 2 | ○『ハンガリー舞曲第5番』を聴き、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 曲想の変化を生かして合奏しよう | ○楽器の音色や響きから生まれる曲想の変化を聴き取れるように、楽器の編成が分かるスコアを用意する。 | ◇楽器の音色や響きから生まれる曲想の変化に関心をもって聴き、曲想の変化について発言したり、記述したりしている。 <発言・記述①②③> |
| 追求する | 2 | ○『風を切って』の各パートの旋律を演奏する。 | ○各パートの旋律の特徴を感じ取りながら演奏できるように、旋律ごとに色分けをした拡大楽譜を用意する。 | ◇旋律の特徴の違いを感じ取りながら、各パートを演奏している。 <表現・記述①> |
| | 1 | ○『風を切って』の楽器の編成を考え、分担を決める。 | ○表現したいイメージに合わせて、楽器の音色を試しながら編成を決められるように、複数の楽器を用意する。 | ◇表現したいイメージを基に楽器の編成を考えて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②> |
| | 2 | ○『風を切って』をパートごとに合わせて演奏する。 | ○自分の分担するパートの旋律の特徴や、楽器の奏法に気を付けて正しく演奏できるように、同じパート同士で集まって演奏する時間を設定する。 | ◇自分の担当するパートの旋律を正しいリズムや音程で演奏している。 <表現①> |
| | 1 | ○『思い出のメロディー』を、曲想に合った奏法を工夫しながら合奏する。 | ○楽器の音色を工夫しながら合奏ができるように、音色について話し合う時間と試奏する時間を交互に設定する。 | ◇表現したいイメージを基に、楽器の音色を工夫して音を合わせて演奏している。 <表現・記述②> |
| まとめる・生かす | 1 | ○曲想を生かして『風を切って』を合奏する。 | ○全体の響きを聴きながら、音を合わせて演奏できるように、向かい合って演奏する場を設定する。 | ◇曲想の変化を感じ取り、全体の響きを聴きながら表現したいイメージで音を合わせて演奏している。 <表現・記述①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音の重なり，変化，音色，強弱 ・題材のつながり：5年「曲想の変化を感じ取ろう」 | | | | |

| | | | | |
|--|---|--|---|--|
| 題材 | 5 詩と音楽の関わりを味わおう | | | 10・11月(5時間) |
| 目標 | 歌詞から情景を思い浮かべ、表現したいイメージに合った声を考えながら歌う。 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 曲想と歌詞の関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら声を合わせて歌っている。 (②思・判・表) 歌詞から情景を思い浮かべ、表現したいイメージに合った発声の仕方や音色について思いや意図をもったり、歌詞に合った表現の仕方を味わいながら聴いたりする。 (③主体的態度) それぞれの曲の歌詞に興味・関心をもち、進んで友達と声を合わせて歌おうとしている。 | | | |
| 教材 | 箱根八里【鑑】 鳥居忱 作詞 滝廉太郎 作曲／長谷部匡俊 編曲 ハ長調 4分の4拍子 P38 花【鑑】 武島羽衣 作詞 滝廉太郎 作曲 P36・37 荒城の月【鑑】 土井晩翠 作詞 滝廉太郎 作詞 口短調 4分の4拍子 P39 ふるさと 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲／浦田健次郎 編曲 4分の3拍子 P40・41 | | | |
| 指導 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 1 | ○『箱根八里』『花』『荒城の月』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 各声域の声のいろいろな演奏形態の響きに気を付けながら歌おう | ○それぞれの声の特徴や響きの違いを感じ取れるように、女声二部合唱、男声四部合唱、混声四部合唱といった特徴の異なる演奏形態で比較鑑賞する時間を設定する。 | ◇演奏形態による声の響きや曲想の違いを感じ取り、発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②> |
| 追求する | 1 | ○『箱根八里』や『ふるさと』を聴いたり歌ったりする。 | ○歌詞の情景をイメージできるように、歌詞に関わる写真を用意する。 | ◇歌詞の情景を思い浮かべ歌詞に合った歌い方について思いや意図をもって発言したり、歌ったりしている。 <発言・記述②> |
| | 1 | ○『ふるさと』の情景を思い浮かべながら、主旋律と副旋律を歌う。 | ○情景に合った発音や音色を工夫できるように、歌詞から思い浮かべた情景と発声や音色の工夫について模造紙にまとめながら歌う機会を設定する。 | ◇情景に合った発声や音色の工夫について、発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②> |
| | 1 | ○グループごとに『ふるさと』に合った歌い方を考える。 | ○発声や音色の工夫と歌詞との関わりに気付けるように、様々な歌い方を比較しながら繰り返し歌う機会を設定する。 | ◇曲想と歌詞の関わりに気付き、歌詞に合う発声や音色の工夫を考えて発言したり、工夫を生かして歌ったりしている。 <発言・表現①②③> |
| 生かす | 1 | ○歌詞に合った歌い方で、『ふるさと』を歌う。 | ○歌詞の情景に合った発声や音色の工夫を生かしながら歌うことができるように、それぞれの曲で思い浮かべたイメージと工夫とをまとめた模造紙を掲示する。 | ◇全体の響きを聴きながら、歌詞の情景に合った発声や音色で、声を合わせて歌っている。 <表現・記述①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色、音の重なり、歌詞 ・題材のつながり：6年「歌詞から想像を広げよう」 | | | | |

| | | | | |
|--|---|---|---|--|
| 題材 | 6 日本と世界の音楽に親しもう①② | | | 11・12月(5時間) |
| 目標 | 日本や世界の国々の音楽の響きを感じ取ったり, 特徴を聴き取ったり, 特徴に合わせて歌ったりする。 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技) 日本や世界の国々の音楽の特徴を理解し, 全体の響きを聴きながら歌っている。 (②思・判・表) 日本や世界の国々の音楽の響きや特徴を感じ取り, 世界の国々の音楽の特徴を捉えながら, 味わって聴いたりする。 (③主体的態度) 日本や世界の国々の音楽の響きに関心をもって, 主体的に聴こうとしている。 | | | |
| 教材 | 世界の国々の音楽【鑑】 バグパイプ(イギリス) / メヘテルハーネ(トルコ) / アルファー(中国) / フォルクローレ(ペルー, ポリビア) / ガムラン(インドネシア<バリ島>) P48・49 雅楽『越天楽』から【鑑】 日本古曲 P47 越天楽今様 慈鎮和尚 作歌 日本古謡 / 浦田健次郎 編曲 P46 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 2 | ○世界の国々の音楽を聴き, 学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 世界の音楽の特徴を感じ取ろう | ○世界の国々の音楽の曲想と音色等の特徴を関連付けられるように, 使われている楽器や背景を手がかりに世界の国々の音楽を聴き比べる時間を設定する。 | ◇世界の国々の音楽の特徴を味わいながら関心をもって聴き, 曲想と音色との関わりについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③> |
| 追究する | 2 | ○『越天楽』を聴いたり, 『越天楽今様』を歌ったりする。 | ○曲想と楽器の音色や奏法とを関連付けて聴けるように, 雅楽の合奏と音取(ねとり)の映像資料を用意する。 | ◇日本の伝統的な音楽に関心をもち, 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し, その特徴を発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③> |
| まとめ かめる | 1 | ○日本と世界の音楽の特徴をまとめる。 | ○日本の音楽と世界の国々の音楽を, 曲想と音色等の特徴を関連づけながら聴くことができるように, それぞれの音楽を聴く機会を設定する。 | ◇日本や世界の国々の音楽の特徴を理解し, 特徴を記述している。 <記述①②③> |
| 【備考】 | | | | |
| ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 音色, 旋律 , 音の重なり, 拍 | | | | |
| ・題材のつながり: 5年「日本の音楽に親しもう」 | | | | |

| 題材 | 7 音楽で思いを伝えよう①② | | | 12・2・3月(7時間) |
|---|---|---|--|---|
| 目標 | 歌詞や音の重なり合う響きの特徴から、曲に込められた思いを想像し、曲想に合った歌い方や奏法で、思いを込めて歌ったり演奏したりする。 | | | |
| 評価規準 | (①知・技) 曲想と歌詞や旋律、音の重なりとの関わりを理解し、歌詞の内容にふさわしい歌い方で歌ったり、曲想に合う音の重ね方で演奏したりしている。 (②思・判・表) 歌詞の表す情景を想像し歌詞の内容にふさわしい声の出し方について思いや意図をもったり、曲想に合った音の重ね方について思いや意図をもったりしている。 (③主体的態度) 曲想に合った歌い方や奏法で、思いを込めて表現しようとしている。 | | | |
| 教材 | 学年選択合唱曲 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 1 | ○昨年度の感謝の集会の動画を鑑賞し、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 音楽で思いを伝えよう | ○卒業式や感謝の集会への思いを共有できるように、動画を観たり、これまでの音楽の授業を振り返ったりして考えたことを共有する時間を設定する。 | ◇音楽で自分たちの思いを表現することについて思いや意図をもち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③> |
| 追究する | 2 | ○合唱曲の主旋律や副次的な旋律を歌う。 | ○歌詞に合った歌い方について思いや意図がもてるように、歌詞から曲のイメージを膨らませる時間を設定する。 | ◇歌詞に思いを込めて歌うことについて思いや意図をもち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> |
| | 1 | ○合唱曲をフレーズに気を付けながら二部合唱する。 | ○歌詞や旋律に合わせて、フレーズを生かした歌い方をできるように、言葉のまとまりや大切にしたい言葉を記入できる拡大譜や拡大歌詞を用意する。 | ◇言葉を大切にしながら歌うことについて思いをもち、発言したり大切な歌詞に印を付けたりしている。 <表現①> |
| | 1 | ○合唱曲の音色や強弱等を工夫して二部合唱する。 | ○歌詞や旋律に合った工夫を、実際の表現と結び付けられるように、考えた工夫を記入できる拡大楽譜を用意する。 | ◇歌詞や旋律に合った、音色や強弱の工夫を考えて記述したり、工夫と表現を結び付けて歌ったりしている。 <発表・記述②> |
| | 1 | ○『学年選択合唱曲』を学年で合唱する。 | ○発表する意図や、友だちと声を合わせて表現する楽しさを実感できるように、学年音楽の時間を設定する。 | ◇考えてきた友だちと声を合わせて演奏する方法を生かしながら、声を合わせて表現している。 <表現①> |
| 生かす | 1 | ○『学年選択合唱曲』を発表する。 | ○曲想に合う歌い方や奏法で演奏できるようになったことを実感できるように、演奏を発表する機会を設定する。 | ◇曲想に合った歌い方や奏法で、思いを込めて演奏している。 <表現①②③> |
| <p>【備考】・4時間目まで2学期に行う。2学期中にパートを決め、冬休みに練習できるよう、配慮する。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色、音の重なり、フレーズ ・題材のつながり：6年 各題材 ・『感謝の集会』で、各学級の発表の際に、伴奏者が必要となるので、担任と連携しながら選出できるよう配慮する。</p> | | | | |

音楽科 6年

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| 題材 | 7 心を結ぶ音楽 | | | 2・3月（6時間） |
| 目標 | 歌詞や楽曲の構成から曲想を感じ取り、フレーズを生かした歌い方や強弱等を工夫しながら、呼吸や発音に気を付けて、のびのびとした声で二部合唱する。 | | | |
| 評価 規準 | (① 知・技)『卒業式』に向け、今までの学習で培った力を生かしながら、心を込めて表現している。 (② 思・判・表) 歌詞や楽曲の構成から曲想を感じ取り、フレーズを生かした歌い方や強弱等を工夫している。 (③ 主体的態度) 曲に合う呼吸や歌詞の内容にふさわしい発音に気を付けて、自分の声の持ち味を生かしながら、のびのびとした声で歌おうとしている。 | | | |
| 教材 | 一つのこと 斎藤喜博 作詞 遠矢良英 作曲 さようなら 倉石正 作詞・作曲 へ長調 4分の4拍子 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 |
| であう | 1 | ○『ひびき合う声で』の学習を想起するよう促したり、卒業式までの取り組みを話し合ったりして学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 今までの学習成果を生かして、卒業式に向けて気持ちを込めて演奏しよう | ○『卒業式』に向けての意識を高められるように、6年生が活躍したことや、お世話になった経験等を想起できる写真を提示する。 | ◇先生方や友達にお世話になった時の気持ちや、自分たちから下級生にバトンを引き継ぐ気持ちを結び付けて演奏への思いを記述している。 <発言・記述③> |
| 追求する | 2 2 | ○曲の主旋律や副旋律を歌う。 ○歌詞や曲想を生かした演奏を工夫する。 | ○歌詞や旋律に合った歌い方について思いや意図がもてるように、歌詞から曲のイメージを膨らませる時間を設定する。 ○歌詞や旋律に合わせて、フレーズを生かした歌い方や強弱等の工夫をできるように、言葉のまとまりや大切にしたい言葉を記入できる拡大譜や拡大歌詞を用意する。 | ◇歌詞や旋律に合った歌い方で歌おうという思いや意図をもって、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> ◇歌詞や旋律に合わせて、フレーズを生かした歌い方や強弱等の工夫をしている。 <表現・記述②> |
| 生かす まとめる ・ | 1 | ○各学級や学年全体での発表を行う。 | ○表現の高まりを感じられるように、自分たちや友達の歌を聴き合う時間を設定する。 | ◇旋律の重なる響きに気を付けながら、強弱等を工夫し、のびのびとした声で歌っている。 <表現③> |
| 【備考】 ・VTR、録音機器、拡大譜、範唱CDを準備する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：旋律、強弱、フレーズ、和声の響き ・題材のつながり：各題材 <その他> ・学校行事『卒業式A』：『一つのこと』『さようなら』の2曲は卒業式で歌う。 ・5年音楽『感謝と祝福の気持ちをこめて』：『さよなら』は5年と一緒に合唱する。 ・学校行事『感謝の心を伝えよう』：『感謝の集会』において、6学年との連携を図る。 ・『感謝の集会』で、各学級の合唱発表の際に、伴奏者が必要となるので、担任と連携しながら選出できるよう配慮する。 | | | | |

